



「劇場版『鬼滅の刃』無限列車編」で強く胸に迫るシーンがあります。主人公が所属する「鬼殺隊」の重鎮、煉獄杏寿郎が死の間際、病床の母親からかけられたことばを回想する場面です。「弱き人を助けることは強く生まれた者の責務です。責任を持って果たさなければならない使命なのです。決して忘れることなきように・・・」ひどく新鮮に聞こえるのは、格差が広がり続ける現実社会では、心に訴える直球のことばを聞く機会が少なくなったからかもしれません。

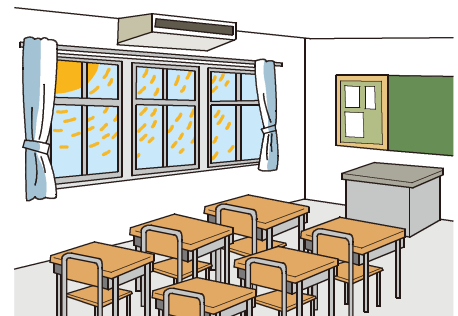


MBSニュースより

1月13日、大阪府内の公立中学校では、高校入試の内申点にも反映される大阪府独自の学力テスト「中学生チャレンジテスト」が実施されました。中学生チャレンジテストは、公立高校の入試に使われる内申点について、学校ごとのばらつきを補正することなどを目的に実施されていて、1年生は国語・数学・英語の3科目、2年生は理科・社会を含めた5科目で行われました。

これまで、1・2年生対象のテストでは、生徒の点数に応じて内申点を補正する仕組みでしたが、今回からは3年生の仕組みに統一。テストの府全体の平均点と各学校の平均点とを比較した上で、内申点の平均の目安を算出し、その目安と実際の内申点の平均に大きな開きがあれば補正する仕組みです。

1・2年生たち約13万4000人の結果は、2月下旬に各校に送付される予定です。



昨日は大阪府下の中学校1・2年生を対象に、チャレンジテストがおこなわれました。できぐあいはどうだったでしょうか。正解は、後日大阪府教育委員会のホームページに掲載されますから自己採点をおこしましょう。・・・なんて、そんなことを言っても、自ら進んでする人と、しない人の2種類の人たちがいることを編集長は知っています。



京セラの創業者、稲盛和夫さんが興味深い話をしています。人生や仕事で望ましい結果を得るための成功方程式があるという。それは能力、熱意、考え方の掛け算だそうです。掛け算ですから、3つのうち1つでもゼロなら結果もゼロになります。能力に恵まれ、意欲に燃えていても、考え方が不平不満に支配されていれば、成果は得られないというわけです。

ライバルがあきらめたその一歩先まで努力するということ。能力は人並みであっても、考え方が前向きなら可能性はおおいにあるわけです。